

Lesson 1 実務翻訳とは

実務文は、一定のビジネス上の目的を持ち、特定の読み手を対象に作成されています。社内の事務連絡を行なための回覧から、製品の取扱いを説明したマニュアル、さらに新聞・雑誌記事、広告文まで、すべて「特定の読み手に情報を伝達して、一定の反応を得る」ことを目的としています。この点で、「不特定の読者に対して、作者の主観的な世界を表現する」文芸作品とは、根本的に違うのです。

そのため、実務翻訳者は、次のようなポイントを常に頭に置いておく必要があります。

(1)文章の読み手と目的にあった文体・表現がある

翻訳する前に、「どのような読み手に対して書かれた文章か」「何を伝えるための文章か」ということをよく考えましょう。マニュアルにはマニュアルの、新聞には新聞のスタイルがあります。書き手と読み手の関係、文章の目的によって、求められる文体や表現が違って来るからです。

(2)一度読めば理解できる文章にする

何度も読み返さないと理解できないような文章では困ります。分りやすく、自然な日本語表現を心掛け、読み手に負担をかけないような文章にしなければなりません。

(3)誤解のない文章にする 解釈は1つだけ

いく通りもの解釈ができるような文章は、実務文章としては失格です。場合によっては、ビジネス上大きな損失を招く危険もあります。書き手の意図を確実に伝えることが重要なのです。

ここでは、1番目のポイントである「読み手と目的にあった文体・表現」について、具体的な例をあげて説明していきます。

[1-1]

Chapter 1 Introduction

1.1 What is this book?

Read this manual first! This is the starting point of your journey toward installing ABC software.

1.2 Why should you read this book?

This manual was written to make your installation easy.

This manual explains:

- What to do before installation
- What information you should know before installation
- The order in which to do installation tasks

(ソフトウェア設定マニュアルの冒頭部)

ポイント / マニュアルの冒頭部であることを意識して訳します。

用語 / installation インストール (作業)

訳例 /

第1章 はじめに

1-1 本書の内容

本書は、ABCソフトウェアのインストールにあたって、最初にお読み頂きたいマニュアルです。

1-2 本書の目的

本書では、インストール作業を容易に行なって頂くために、以下の項目について説明しています。

- ・インストール作業の前にしておくこと
- ・インストールのための前提知識
- ・インストール作業の順序

【解説】

特に難しい単語も使われていませんので、一読すれば意味は理解できると思いますが、これをマニュアルの目次として適切な文章に訳すためには、下記のようないくつかのポイントを押さえる必要があります。

疑問詞・関係詞を名詞的に訳す

マニュアルの目次や項目は簡潔であることが大前提なので、名詞的に訳するのが基本です。

What is this book? は「本書の内容」とし、「この本は何でしょう?」とはしません。

Why should you read this book? も同様に「本書の目的」

What information you should know before installation は「インストールのための前提知識」とします。

一方、同じ関係詞でも、口語表現だと下記のような訳になります。

Ask not what your country can do for you, ask what you can do for your country.

(ケネディ大統領の演説)

国が自分に何をしてくれるかではなく、自分が国のために何ができるかを考えて欲しい。

命令文の翻訳

マニュアルには命令文がよく使われます。学校英語では、「命令形」=「～なさい」と教えますが、実務翻訳でこのような表現をすることはほとんどありません。

上記のようなマニュアルの場合は、読み手(顧客)が書き手(メーカー)より立場が上になりますので、「～してください」のように丁寧さを出す必要があります。また、簡潔に指示内容を使えるために、「～すること」と体言止めにする、「～します」と平叙文にする方法もあります(最近のコンピュータマニュアルは平叙文が好んで使われます)。

Read this manual first! は「最初に読みなさい」ではなく、「お読み下さい」「お読み頂きたい」と訳します。

具体的にイメージできるように表現する

This is the starting point of your journey toward installing ~ は、「インストールに向けた行程の出発点です」と直訳しても意味が伝わりますが、前後の文章と比べて違和感があります。この文章は、客観的な事実を述べているのではなく、読み手がやるべきことを指示するためのものですので、比喩的な表現にこだわらず、トーンを揃えたほうがよいでしょう。

[1-2] Improvements developed by either party shall be promptly disclosed to the other party in writing. (ライセンス契約書)

[1-3] Try our new improved hand soap. (化粧品の宣伝コピー)

ポイント / 文章の目的にあわせて最適な表現・用語を選びます。

用 語 / party 当事者 disclosed 開示する in writing 書面で

訳 例 /

[1-2] 各当事者が行なった改良は、書面によりただちに相手方当事者に開示される。

[1-3] 生まれ変わった当社のハンドソープをお試してください。

【解説】

上記2つの文章は improve, improvement という語を、「何かに手を加えてよりよくする」という意味で使っていますが、文章の目的によって最適な表現が異なります。

[1-2] の場合は「改良」が適語ですが、[1-3] を「新しく改良されたハンドソープ」と訳してしまうと、宣伝コピーとしてはいまひとつ訴求力に欠けてしまいます。これを「生まれ変わった」とすると、ぐっとインパクトのある表現になります。文体の点でも、契約書は文語的、コピーは口語的とそれぞれ求められるスタイルが異なっていることに注目してください。

覚えておきたい用語・用法

文体について……「である」調と「ですます調」

実務文と一口でいっても、マニュアル、ビジネスレター、新聞・雑誌、契約書など様々なジャンルがあり、それぞれに固有の文体があります。

文体には大きく分けて、「である」調と、「ですます」調があります。

「である調」

語尾を「である」「する」というトーンで終わらせる文体で、論文、新聞、契約書などで用いられます。簡潔さと客観性を効果的に表現することができます。

例) ・週明けの東京株式市場は、銀行株を中心に反落した。

・翻訳の基本は日本語の力である。

「ですます調」

語尾を「ですます」のトーンで締めくくる文体で、マニュアルや広告、ビジネスレターに多くみられます。読み手に語りかけるような柔らかい文章になります。

例) ・ご不明な点がありましたが、遠慮なくお問い合わせ下さい。

・粗食が長生きの秘訣です。

多くの場合は、原文のジャンルやトーンで文体がおのずと決まりますが、どうしても不明な場合は、発注元に確認する必要があります。文体によって、文章の印象が大きく変わりますので、注意しましょう。

ワン・ポイント.....実務翻訳者に求められる能力

「英語が好きだから、仕事にしたい」という思いから翻訳を志す人が多いのですが、実務翻訳者に求められるものは、英語力だけではありません。以下の能力をバランスよく備えている必要があります。

(1)英語の能力

すべては、原文を正しく理解することから始まります。最適な訳語を見つけることによって、原文の真意を読み取り、具体的なイメージをつかむことが大事です。自分が理解できていない内容を表現しようとしても、意味不明の訳になるだけです。また、日本語にも色々なレベルの文章があるように、英語の原文が英文法に準じて、正しく書かれているとは限らないということも頭に置いておく必要があります。

(2)日本語の能力

理解した内容を、読み手に正しく伝えるためには、明快で分かりやすい日本語を書く力が必要です。毎日何気なく使っている日本語でも、いざ適切に使おうと思うと、意外と難しいものです。普段から、表現者の目で文章を読むように心掛け、論理的な文章を書く訓練を意識的にこなすことが大切です。

(3)翻訳対象に関する知識

言い換えれば、「専門知識」ということですが、最初からパーフェクトである必要はありません。要は、原文を正しく理解できればいいのですから、分からないことが出てきたら、とにかく調べ、調べた知識を蓄積していけば、道が開けてきます。希望分野が決まっていれば、その分野に関する新聞記事や雑誌に普段から目を通しておくことをおすすめします。

(4)調査する力

最近では、インターネットの普及で、様々な情報がぐっと入手しやすくなっています。分からないことは分かるまで調査する「粘り強さ」こそがプロ翻訳者の必須条件です。少しでも疑問が生じたら、調査の手間を省かず、とことん調べましょう。そのためには、パソコンやインターネットに強くなることも必要です。